

注意して下さい！：

大小の白点が体表にあるサメハダテナガダコ

今年（2019年）の10月初め、香川県中讃地区（備讃瀬戸西部）のたこつボ漁業者から水産課に、変わったタコがツボに入っていたとのことで、1枚の写真が送られてきました（写真）。その他の情報としては、体重は約1キロ、そのタコを突くとその周辺が青白くなるとのことでした。



写真 たこつボに入っていたサメハダテナガダコ

変わった模様があることで強い咬毒（咬むことで注入する毒）を持つヒョウモンダコが疑われたのですが、ヒョウモンダコは青い斑紋があり、全長15cm程度にしか大きくならないので、おそらく違いただろうと考えました。次に写真を手掛かりに図鑑で探したところ、「サメハダテナガダコ *Octopus luteus*」が最も体表の色彩に近いものでした。そして、本種は千葉県房総半島以南に生息していること、全長70cmまで大きくなること、サメの肌のように体表に多くの突起があること、触感が見た目より柔らかいこと、触ると白色斑が青白く蛍光を発することなどから、写真のタコはサメハダテナガダコだと

判断しました。

サメハダテナガダコについて、さらに図鑑やネット検索で調べると次のようなことも分かりました。本種にも咬毒があり、咬まれた場合に体がしびれたりするようです。ただし、本種による死亡例はなく、ヒョウモンダコのような猛毒ではないようです。また、2016年の秋に姫路市周辺で漁獲された記録がありました。さらに、本種は香港や台湾、フィリピンでは漁獲対象となっているようですが、マダコやイイダコに比べると、水っぽく、旨味も弱いようです。

近年、瀬戸内海で猛毒を持つヒョウモンダコが確認されております。マダコやイイダコとは違った色彩を持つタコが獲れた場合は、毒を持ったタコかもしれないと思って、できるだけ手を触れない、仕方なく手を触れる場合には厚手のゴム手袋をつけ、腕も素肌が出ないようにしてから十分注意して触るようにして下さい。

【参考文献】

姫路市立水族館のブログ、サメハダテナガダコ。

<https://hcityaqua.exblog.jp/23268366/>

石川陽子（2018）ヒョウモンダコ～小型のタコにご用心～。徳島水研だより，103，1-3。

サメハダテナガダコはやる気がない味。

<http://zazamushi.net/samehadatenagadako/>

土屋光太郎・山本典暎・阿部秀樹（2002）イカ・タコガイドブック。阪急コミュニケーションズ，93。

山田陽巳・窪寺恒己（1998）五島列島から採集された斑紋たこ：サメハダテナガダコ？。西海水研ニュース，94，4-6。

（文責 主席研究員 山本昌幸）